



Special Topics

2

認知症になっても ずっとこのまちで

誰にでも起こり得る病気「認知症」。現在、85歳以上の4人に1人は認知症の症状があるといわれ、町でも認知症の人が増えることが予想されています。今回、認知症フォーラムでの在宅介護、地域や町社協の取り組みにスポットを当て、誰もがいきいきと暮らしていける、支え合うまちづくりを考えます。

私 の母は92歳、生まれも育ちも木倉です。80歳後半まで、自転車で買い物に行っていました。

体が不自由になったのは、約4年前。庭で尻餅をついたことがきっかけで、だんだん歩けなくなり、杖が必要になり、家事も畑仕事も思うようにできなくなりました。それでも、私たちのために夕食の準備をしてくれていました。しかし1年経った頃、認知症のような様子が見えはじめ、私の職場に電話を掛けるようになりました。「もう母の側にいなくてはいけない」と思い、仕事を辞めました。

近 所の友人に誘われ、デイサービスに行きはじめました。1カ月でやめてしまいました。「家におればすることはいっぱいある」と母は言います。母はおせっかいな程に親切な人でしたが、別人のように意地悪な人へ変わっていききました。近所の人からの親切を拒否して、いじわるや皮肉を言ったりするようになりしました。一日中続く母の勘違いや妄想。自分の心をコントロールすることはとても

難しく、感情的になったり落ち込んだりしていました。

感 情的になって母とけんかになりそうになるとき、妹にSOSを発信します。「お



母を在宅で介護する
橋本 純子さん（木倉・66歳）

ら、1日1回は顔を見せるようにしてくれています。隣の奥さんはいつも夕方になると、そつとのぞいてくださいます。この存在がどんなに私の肩を軽くしてくれているこ

家族

「母の笑顔と 誇りを大切に」

母さんに電話して。声を聞かせてやっつて」と。妹の声を聞くと母は、今までのことはすっかり忘れて、ご機嫌になります。妹は、「私はリポビタンDみたいね」と笑いな

とかわかりません。

か りつけの病院で紹介してもらった精神科の先生は、「認知症の人は忘れたいけれど、忘れられない辛い過

去の出来事が吹き出してきました。認めてほしいというお母さんの気持ちに家族にできることは『感謝』です」と言われました。90年間人一倍働き、80代になっても家事を受け持ち、家族を支えてきた私を認めてという叫びです。

母は、「私はまだ、何も世話にはなつとらん。ありがた」とよく言います。それが母の誇りで、母の誇りを支えられることが、私たちの願いです。しかし、それは自分の心をつめつけていかねばならないことでもあります。

母 は今年の正月も、車いすで買い物についていきました。お世話になった人へのお歳暮も全部ついて行き、あいさつをしました。外出のときは必ず遠回りをして、自分の畑を見て、昔住んでいた集落の道を通って帰ります。昔住んでいた地域の人たちはいつも快く迎えて、「マサ子おばさん」と母を囲んで昔話に花が咲きます。

これから、地域の暖かいまなざしのなかで一日一日を喜び、安らぎの時間で満たしてあげたいと思います。

高 木地区下高野は、御船町で一番世帯数が多い地域です。高齢者だけの世帯も多く、毎月72軒の声掛け訪問をしています。最初は地域のことも、地理も、人もわからずなじむまでは大変でした。

「まだ声掛けして心配してもらうごつ年取っちゃおらんけん、来んでよかばい」「あたたちも暇な」と言われたりしました。それでもめげずに訪問を続けました。そのうち、「もう帰るとね」「お茶飲んで行つて」とか、井戸端会議に入つて話をしたりしていました。今では、見守り家庭訪問が楽しくなってきました。お互い笑顔で言葉を交わし合うことが、いつの間にか楽しくなっていたのです。

活 動の中で体験したものに

は、二人暮らしだったご夫婦が連れ合いを亡くされたとき、寂しい姿を目の当たりにしました。その数年後、後追いするように亡くなられ、本当につらいものもありました。

これは昨年、私が経験したことです。身寄りのない一人暮らしの人が救急入院され、

駆けつけると意識もなく体も動かない状態に。「つらい別れなのか」と頭をよぎりました。何度も見舞いに行くうちに、少しずつ回復され、リハビリ病院に転院。車いすで移



高木地区下高野民生委員
木村みち子さん（高木・60歳）

地域

「生きる力を支える」

動できる程度になりました。「住み慣れた家に帰りたい」と本人の意志が強く、町地域包括支援センターと連携を取りました。自宅の掃除、段差の工事、ベッド搬入、ケアマ

支えになろう、生きる力を支えようと活動していると大変なこともあります。あるときから一筋の光が差し込んだみたいになる表情をみせてくださるようになります。そ

れがとてうれしく、活動の支えになっています。

家 族の手助けになればと昨年7月、地区の区長や役員に呼びかけて、災害時要援

護者対象リスト作り、小地域見守りネットワーク見守り隊の結成を訴えました。皆さんとても協力的でどんどん輪が広まり、元氣クラブやサロンのサポーター、消防団、各団体で、対象者と支える側の人ガリストアップされました。社協にも見守り隊を申請して緊急安心カードを作成し、声掛け見守りをしています。

私 一人ではできないことでも、区長や地区の皆さんを巻き込んでいます。御船町や高木地区に住んで良かったと思われるように、サロンや元氣クラブで友達の輪をつくります。楽しみながら、高齢者になつても、認知症になつても、誰かが見守り支えてくれるような安心のまちづくりをみんなで作っていこうではありませんか。

そして、私たち自身も安心して生活を送れるようにしましょう。

●認知症
脳細胞の働きが悪くなって起きる病気。症状は、もの忘れ、場所や人がわからなくなる、理解力の低下など。主にアルツハイマー病と、脳血管性認知症がある。